



最終的には、日本とインド、タイの3か国を
SuperStream-NX でつなげていくことを目指しています



クミ化成株式会社

グローバル展開を視野に海外パートナーと環境を整備
業務効率化に貢献する AI-OCR も実装した SuperStream-NX



会社情報

本社
東京都千代田区神田東松下町 47-1

従業員数
2039 名 (連結)

Web サイト
http://www.kumi.co.jp/

資本金
3 億 7,300 万円

事業内容

- 自動車内外装部品の研究開発、設計、製造、販売
- OA/ 通信機器などの樹脂・ゴム製品の製造、販売

導入ソリューション

- SuperStream-NX 統合会計
- SuperStream-NX 固定資産管理

導入パートナー

- Siam System Consulting Co., Ltd.

導入の背景

働き方改革を契機に財務会計基盤を刷新

1918年に工業ゴム製品の販売を手掛ける個人商店としてスタートし、現在は乗降時の補助や急カーブで上体を支える際に利用されるグラブルールをはじめとした自動車内外装部品を主力に、樹脂・ゴム製品の研究開発から設計、製造、販売までトータルに展開する自動車部品メーカーであるクミ化成株式会社。米国をはじめ、タイやインドなどに生産拠点を構えるなどグローバルにビジネスを展開しており、自動車メーカー各社と協創しながら、一次サプライヤとして自動車産業を強力にけん引している。

そんな同社において、財務経理を担当しているのが管理本部 総務部 財務・会計課だ。総務人事や財務経理、そして情報システムの機能を持つ総務部では、少人数で社内のバックオフィス全般を運用しており、財務・会計課においても少数精鋭にて会計業務を長年運用してきた経緯がある。「昨今働き方改革が多くの企業で進められていますが、我々も働き方改革に資する環境づくりに取り組むことに。そこで、既存の財務会計だけでなく、生産管理システムおよびグループウェアの刷新も同時進行で進めることになったのです」と管理本部 総務部長 青山 敦男氏は当時を振り返る。数年前からタイにて生産管理システムの立ち上げを行ってきた青山氏が2019年に帰国したのを契機に、新たな環境づくりに向けたプロジェクトが始動することになったのだ。

導入の課題

30年以上前のオフコンが稼働、手作業による煩雑な業務からの脱却へ

もともと財務会計の仕組みは、30年以上前に導入されたオフコンにて構築されたもので、基盤そのものの刷新が以前から急務となっていた。「働き方改革につながる仕組みを模索することで、単に数字を出すだけでなく経営に直結した仕事ができる環境を整備したいと考えました。携わっている

メンバーそれぞれが戦略的な動きができる、単にキーパンチャーではなく高度な管理が可能な人材に育てて欲しい。そのためには既存業務の負担を減らして新たな業務にシフトできる時間が必要です。だからこそ、省力化につながる仕組みが求められていたのです」と青山氏は説明する。そこで、オフコンからの脱却を図るためのレガシーマイグレーションに取り組むことになったという。実際のオフコンによる財務会計の仕組みは、紙による日々の伝票処理が中心だったと本部 財務・会計課 財務・会計係 係長 強矢 大介氏は課題について語る。「各拠点に在籍している経理担当者は紙をベースに日々の伝票処理を行っており、業務的な負担が大きい状況でした。帳票がオフコンに十分そろっておらず、決算時には Excel を駆使して手作業で作成するなど、本社側でも月次や年次の決算時には大変な労力が発生していたのです」

システム選定と導入

グローバル対応と

周辺システムとの柔軟な連携が魅力

新たな仕組みづくりに向けて、内部統制や法令改正対応、決算書類の自動化、帳票へのリアルタイム反映、完全なクラウド対応などのマスト要件を軸に、複数の製品を選定することに。そのなかで注目したのが、デモの評価が最も高かった SuperStream-NX だった。「マスト要件を満たした製品から実際にデモを行ったところ、画面の見やすさと直感的操作性の点で現場からの評価が一番高かったのです」と青山氏。

また、グローバル対応できる点も SuperStream-NX 選定の大きなポイントだった。「選定したほとんどの製品が、グローバルでの対応が難しいという回答でした。実は SuperStream を知ったのは、タイで生産管理システムを立ち上げているとき。スクラッチ開発した財務会計システムを、いずれは刷新しなければと考えてはいた。そんな折、タイで生産管理システムを立ち上げたパートナーから SuperStream の紹介を受けたことがきっかけで

Interviewee



青山 敦男氏
クミ化成株式会社
管理本部
総務部長



強矢 大介氏
クミ化成株式会社
管理本部 総務部 財務・会計課
財務・会計係
係長

した。最終的にはタイやインドにも日本と同様の環境を展開することで、グローバルで同じ仕組みを動かすことが理想的だと考えており、将来性も加味するとグローバル対応が可能な SuperStream-NX を高く評価したのです」と青山氏。

グローバル展開を念頭に考えれば、海外製品という選択肢も十分考えられたものの、生産管理と密接に連携した会計パッケージが多く、コスト的にも同社に見合うものではなかったという。「生産管理のパッケージを導入して失敗している企業をタイで数多く見聞きしており、当初から生産管理システムは自前で開発する計画でした。パッケージの生産管理と密接につながる海外製品は避けたいと考えたのです」。実は自社のオフコンも周辺システムと密結合しており、改修時の苦労を経験していた青山氏にとっては部分最適を実現させるシステムとして、周辺システムと柔軟に連携できる SuperStream-NX は同社にとっても最適な環境だったのだ。

また、プロジェクト当初から請求書など紙の情報を OCR にて読み取ることで、帳票の電子化による電子帳簿保存法への対応も検討していた同社。その環境づくりの過程で、SuperStream が提供する AI-OCR ソリューションにも注目したという。「紙で運用していた業務を電子化して、さらに実務の時間が減らせるよう、財務会計とは異なるプロジェクトとして OCR を当初から検討していました。そんな折、ちょうど SuperStream-NX AI-OCR (請求書) がリリースされたのを聞き、同じベンダのソリューションの方が連携性も高いと判断したのです」と強矢氏。単なる OCR による読み取りよりも、定期的にデータを学習することで読み取り精度の向上につながる AI-OCR に期待を寄せたのだ。

結果として、グローバル展開を念頭に SuperStream-NX が、生産管理システムとの柔軟な連携が可能な財務会計の基盤として採用されることになった。

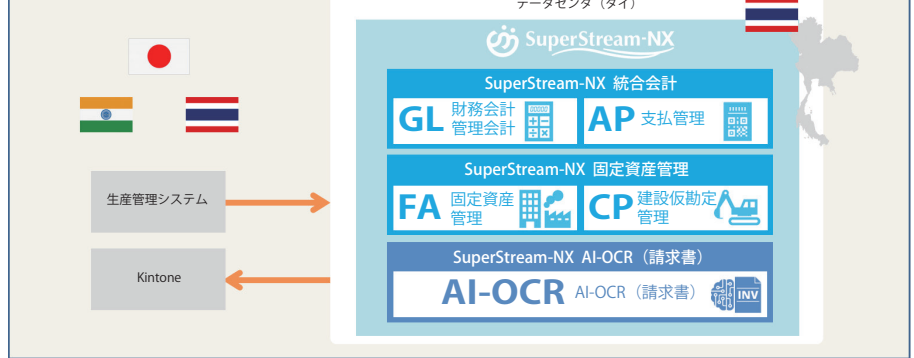
導入効果

グローバルな財務会計の基盤を整備

AI-OCR による効率化も進める

現在は、タイのデータセンターに設置されたクラウド環境に SuperStream-NX を展開し、統合会計をはじめ、固定資産や建設仮勘定などの機能を軸に財務会計の基盤として運用をスタートさせている。具体的には、国内の各拠点に所属する経理担当者があり、拠点ごとに請求書を SuperStream-NX に入力し、月次決算などは本社主導で処理を行っている。「以前は 10 年間の固定資産の償却予測などを求められても出すことが難しい状況でしたが、今は固定資産のシミュレーションが容易になるな

システム概念図



ど、いろいろな面で便利に使っています」と強矢氏。なお、SuperStream-NX AI-OCR (請求書) と証憑管理オプションは現在導入を進めており、近い将来、各拠点に届いた紙の請求書は入力せずにスキャンして SuperStream-NX に取り込むことになる。今回開発を主導したのはタイに本社を置く企業で、タイの生産管理システム開発プロジェクトを推進した、ASEAN を中心にビジネスを展開する Siam System Consulting Co., Ltd. だ。日系企業向けの SuperStream-NX 導入を得意としている。「いずれグローバルに展開するのであれば、タイの会社が日本に導入するという手法もありだと弊社の役員から進言があり、その発想には当初驚いた記憶があります。生産管理システムの導入時にも高く評価したこともあり、ぜひお願いすることにしました」と青山氏。また、当初は新型コロナウイルス感染症が広がっていない状況だったため遠隔での導入は想定外だったが、プロジェクトを進めるなかで Web 会議にて打ち合わせを続けながら導入を進めたという。以前からテレビ会議を使ってミーティングすることに慣れていたことも手伝って、日本とタイという距離の離れた環境でも遅延なくプロジェクトを進めることに成功、わずか半年の間で稼働にまでこぎつけている。むしろほとんどの打ち合わせを Web 会議にすることで、隙間時間を上手に活用できるというメリットもあったという。「急激な IT 化によって現場からの抵抗がゼロとは言いませんが、カイゼン文化が根付いている製造業だからこそ、常に新しい改善をしていこうという機運が社内にあったことが今回のプロジェクトがうまく推進できた要因の 1 つ」と青山氏は分析する。

新たな環境に移行したことで、財務・会計課内の指標では残業時間が対前年比 59% にまで圧縮できており、紙による承認業務が撤廃され、手作業による帳票作成も不要になるなど、本社、拠点ともに業務の負担が大きく軽減されている。そして今後 AI-OCR が動き出せばさらなる業務効率化に寄

与するだろうと期待されている。AI-OCR の活用によりは転記作業が削減できるだけでなく転記ミスなども大きく削減できるなどガバナンス的にも大きな効果が得られるはずだと青山氏。「AI-OCR、証憑管理が導入されれば、紙の証票がすべて電子化されるため、場所を問わず承認作業ができるようになります。少数精鋭で運用している分、どこからでも業務が進められるのは大きな副産物です」と高く評価する。

今後の展望

日本発の財務会計基盤をインド、そしてタイへ展開

今後は、現在稼働している日本の財務会計システムをインドに展開する計画が進められており、グローバルな財務会計基盤としてさらなる拡張を続けていく予定だ。「タイで構築された生産管理システムを改良して日本に展開することも進めていますが、この日本発の財務会計についてはインドにまず展開し、その後タイにも適用していく予定です。最終的には、日本とインド、タイの 3 か国をすべて同じシステムでつなげていくことを目指しています」と青山氏。

各国で生まれたシステムをそれぞれの国に展開した後は、生産システムと財務会計システムの連動性を高めていくことが必要だと青山氏は力説する。「製造業であるがゆえに、最終的には各システムを生産にうまく直結させていくことがポイントになってきます。いまだに生産現場はマニュアルな部分が多いため、モノづくりに役立つデータが欲しいというニーズは必ずあるはず。SuperStream-NX をうまく活用しながら、生産管理との連携を深めていきたい」と今後について語っていただいた。



スーパーストリーム株式会社
〒140-8526 東京都品川区東品川 2-4-11 野村不動産天王洲ビル
TEL : 03-6701-3647 FAX : 03-6701-3641 E-mail : ss-info@superstream.co.jp
www.superstream.co.jp

お問い合わせ